

総合コーディネーター事業

総合コーディネーター事業?なんだか難しい名前ですね。これは、子育ての情報を集めて、お知らせしたり、皆さんの「困った、けどどうしたらいい?」という相談に乗ってくださるコーディネーターさんのことです。

例えば、こんなことを質問してみてください。

- 急な用事があるときに、子どもを預かってくれるところがありますか?
- ママ・パパ友達を作りたいのですが、みんなが集まる場所って?
- 子どもが大きくなってきたので、広いところで遊ばせたいのですが、どこか子どもが遊べる場所がありますか?

コーディネーターは、どんなことに困っているのか、どんなことをしたらよいか、しっかりお話をきいて、相談者にあったサービスを紹介します。

保護者が安心して子どもを預けられるサービスを利用して欲しいと思っています。でも、一番大切なのは子どもです。もちろん保護者の皆さんの都合や状況も考えていますが、子どもにとってどれが最も合うサービスなのかを考えています。

例えば、集団生活に慣れていない子どもには保育園での一時保育よりファミリーサポートをお勧めします。逆にお友だちと遊びたい子どもは一時保育がいいですね。

いくつぐらいなのか、どんな子どもさんなのか、一緒に話し合いながら、一番あったサービスを見つけていきましょう。

子育て支援センターにいます。生涯学習情報誌に掲載している「あいあい」もつくっていますよ。気軽にお話に来てくださいね。



コーディネーターの **佐藤 真二** さん

子育て支援センター ☎(294)9511

親子で遊ぼう
チョチ チョチ アワ

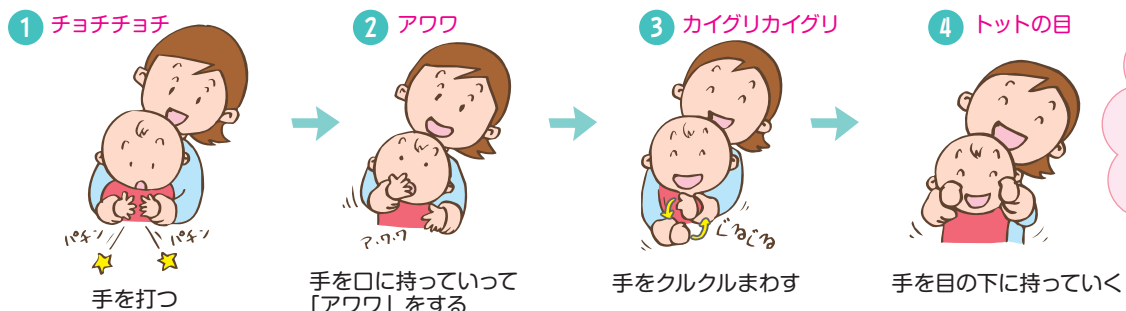
★遊び方★

赤ちゃんの手をとって歌に合わせて、手を打ったり、アワをしたりさせます。このほか「オツムテンテン」「ニギニギパッパ」などの言葉でもできます。

ポイント

お母さんと向かい合ってやってみたり、お母さんの顔でやってみたり。

♪ お母さんが赤ちゃんの手を持ってリズムをとって手を動かす ♪



大きくなるとお母さんの歌に合わせて一人でチョチチョチアワ...トットの目をするようになります

輝く人権 シリーズ 86

人権推進課 人権推進係 ☎(293)5981

これからも、人権感覚を大事にする授業を生徒たちにしていきたいです。

あかほし せいじ **赤星 誠司**さん(大津中学校教諭)



今回は、大津中学校吹奏楽部代表顧問として、中学生の音楽指導をしている赤星誠司さんに話を聞きました。

吹奏楽部の活動を通して何か感じることはありますか?
今では教え子たちも300人を超えました。これまでにたくさんの方にも受賞し、高い評価を得ることができました。しかし、私は良い成績を残す条件として、生徒自身の努力の確にアドバイスできる指導者、それを温かく見守って支えてくれる保護者の協力が必要だと思っています。私からこうして欲しいと頼めば、すぐ対応してくれる。私は、常に音楽指導だけに専念できるこの環境をつくってくれた保護者との出会いに感謝しています。

大津中学校吹奏楽部(以下吹奏楽部)をご紹介します。
吹奏楽部は今年で創部50年を迎え、「音心のハーモニー」をモットーに、50人を超える部員で、毎日楽しく練習をしています。昨年の県吹奏楽コンクールと県マーチングコンテストでは金賞を受賞し、県代表として九州大会に出場しました。福岡で開催された九州大会では銀賞を受賞しました。全国大会への切符を逃しましたが、4年連続10回目の快挙を成し遂げることができました。また、つじ祭りなどの町のイベントには毎年参加して会を盛り上げています。コンテスト出場の際に、いつも応援してもらっており、その恩返しのためにも、「音楽」という「花」を添えています。感謝の気持ちを実感しながら子どもたちと一緒に楽しく参加しています。

「人権教育」についてお聞かせください
私の「人権」教育は、教諭になつたばかりの頃に始まりました。その後、学習会などに参加する度に、自分が持っている差別心に基づき、自分分が持っている差別心に気づきました。人権学習の大切さに痛感した私は、波野中時代、県立劇場で開催された第1回の解放文化祭で、識字級のおばあちゃんの手紙に対する返事に曲を作り発表しました。私は授業でよく「人前で歌う」ということについて話します。歌うことはとても勇気がいる。みんなが認めてくれる。

謝しています。
「学校教育」に対する思いをお聞かせください
私は、教諭歴27年、同校は今年で通算14年目を迎え、現在全15クラスの音楽の教科を一人で受け持っています。学校を良い雰囲気にする最良の要素は、部活動だと思います。うちの生徒は、3、4年前から、あいさつをする時は必ずきちんと立ち止まってから行います。まず、吹奏楽部とサッカー部から定着させた結果、今では全生徒に広がりました。子どもにもいつも話していますが、大会で入賞する学校は、挨拶や靴並べ、機材撤収など動きに無駄がなく、組織の指示系統がしっかりしています。基本的な生活態度が演奏にもあらわれるのです。ですから、学校でも同様の日頃の生活習慣が一番だと思います。

同校の教務主任でもある赤星先生は「繊細な人権感覚を持った子どもを守り育てていくために、自分たちがいつも敏感に感じるとるよう、若い教諭に伝えなければならぬ」と語ります。自分を決して驕ることなく、生徒と本気で向き合うことのできる頼れる先生。そんな先生の「夢」は愛娘の結婚式で、長瀬剛さんの「乾杯」をピアノを弾きながら歌うことだとか。もう20年以上も前の先生の教え子である私は、当時と変わらぬ家族思いのやさしさに、よりいっそう共感しました。
最後に、子どもたちへメッセージをお願いします
人は失敗があるたびに、必ず努力して立ち直れます。失敗を恐れず、何回でもチャレンジしてください。そして、「人づくり・仲間づくり」を大切にしながら、自覚と責任を持った大人になることを期待しています。

